

## フェスタ実行委員と劇人とのリモート会議

日時：令和3年(2021年)10月19日 19:00~21:30

□出席者（フェスタ実行委員会）

原田実行委員長、水上公演部会長、北原総務部会長、坂本広報部会長、植松広報副部会長、福与総務副部会長(途中参加)、木田実行委員、公民館主事（林、三井、亀山、青山、代田）、事務局（下井、田中、山崎）

□出席者（劇団）プロ：くすのきさん(進行役)・吉田さん（むすび座）・松澤さん、鶴巻さん（クラルテ）・和気さん（わけちゃん）・山本さん(京芸)、アマ：伊藤さん（わたぐも）・熊田教授（岐阜聖徳短期大学）・松崎教授

### <くすのきさんから、ミーティング開催の経緯、本日の予定について>

- ①フェスタ実行委員会から、2年間フルの状態ではフェスタを開催できなかったことについて報告
- ②人形劇人から、このコロナ禍における劇団の状況及び飯田のフェスタがないことでの影響についての報告
- ③フリートーク

### <原田実行委員長からあいさつ>

2年続けて劇団の皆様へ迷惑をかけてしまったことへのお詫び。歴史が長いわりに今までできていなかった実行委員会と劇人の皆様とのコミュニケーションの一環として本ミーティングを開催した。

### <実行委員会側の自己紹介>

#### <北原総務部会長から 昨年～今年の実行委員会の報告>

2020年は臨時会議も含め15回の会議を開催。4月に中止の決定、期間中のYouTube配信、その後は試験公演も行い、11月からは2021年開催への検討を開始した。2021年になり、フェスタ開催までに10回の会議、3月には飯田保健所長への相談も行った。4月の企画運営で、①中止判断の時期を6月下旬から7月上旬とし、②海外劇団をお断りする、③劇人および観劇者の来訪お断りの基準を10万人あたりの感染者数15人と決めた。全国の感染レベルが上がり5月下旬には緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置地域の劇団数がフェスタ参加予定劇団数の66%を占めたことを踏まえ、このままではプログラムも組めないということで、6月に長野県限定開催決定。その後も月1回程度会議を開きながら感染状況を注視、最終的には長野県独自の指標である警戒レベル4となった県内圏域からの参加もお断りすることとなったが、当圏域は警戒レベル3のままだったため開催可能となった。

#### <長野県の警戒レベル4とは？>

長野県の場合はコロナに対するガードが固く、6段階指標で、レベル5と6は公共施設が使えない決まりがあるので開催は不可能。レベル4でもイベントでの人数制限や無観客化・中止または延期を検討しなければならず、厳しい制限がある。

#### <地元住民の開催までの受け止め>公民館主事から

通常の地区公演と言えば、会場に子どもがぎゅうぎゅう詰め、というイメージ。地区では「今年本当に開催できるのか」という声が多かった。スタッフもボランティアで、不安の声が聞かれたため、フェスタ本部の方でもう少し感染予防対策をしないと開催できないとして、4月の総会議案をいったん取り下げ、再検討した経緯もあった。

#### <劇団側から厳しいコロナ禍の劇団状況と飯田への想い——むすび座吉田さん>

むすび座は、毎年1,000ステージ以上の公演をしていますが、2020年度は約50%。2021年度は予定自体が少ない。生活の不安だけでなく、精神的に追い詰められ、若い人材が減っていくと将来の担い手がなくなる。子供たちが生の舞台芸術に触れる機会が減り、大人になっても興味がない人になり、10年20年先の文化芸術の危機を招くのではないかと。

飯田のフェスタは特別な存在。むすび座では劇団全体で公民館宿泊していた。学生時代に飯田に来たのがきっかけで入団した人も多い。飯田の苦悩は説明で理解できた。今後もこのような交流を行っていききたい。

#### <クラルテ鶴巻さん、松澤さん>

減収はもちろんのこと、キャンセルが出ると、その後のスケジュールがガタガタになり、稽古がずれたりし

て役者に大きな負担。県内限定(参加お断り)の連絡と同時に地区公演打ち合わせの連絡も来た。その経緯は？参加できずショックだったが、県内だけであっても中止にしなかったことを評価したい。

### <京芸山本さん>

飯田のフェスタはアマチュア時代からのあこがれだった。団員は人形劇三昧の1週間で過ごすことが楽しみ。様々なフェスティバルの今年の状況を知っているが、飯田の苦悩は想像を超えたものだった。今後の飯田のフェスタのために何かできることがあればと思うので、今後もこのような交流を持ちたい。

### <わたぐも伊藤さん～アマチュアの立場から>

大学サークル時代に飯田に来て以来、長く人形劇に携わっているが、アマチュアはコロナ禍では、やれるときにやるしかない、という状況。むしろ心配なのは大学のサークルが先細っていること。若い人を飯田に連れて行って、魅力を伝えられたらと思う。

### <熊田教授～厳しい大学サークルの状況>

コロナによりほとんど活動ができない状況。いったんは学生ゼロとなった。そこから復活したが、今年のフェスタに来られず残念。飯田はモチベーションのきっかけになっていた。短大だと2年しかないので、飯田を知らずに卒業する学生もいる。飯田での学生同士やプロとの交流に期待している。

### <和氣さん～一人でやっている劇団代表>

カーニバルの1年目から欠かさず参加してきたが、それがついに途切れて残念。やりたいことをやる、その表現の場として飯田があり、伝統、プロ、アマチュア、全国のいろんな劇人たちがこれからも協力して作り上げていく、それが本来のフェスタの在り方だと思う。

## **フリートーク**

### <サポートスタッフの減少でフェスタが消滅?!>

最盛期 450 人いたサポートスタッフが 200 人に減り、さらに期間の一部しか参加できない状況。実際にはスタッフの 90%が市の職員。規模は大きくなるのにスタッフが減り、このままでは運営できない。

→他のフェスティバルの状況を聞いてみる。 →学生の単位の一部にしてもらうのはどうか？

→フィールドスタディーの活用

### <今年のフェスタは?>

- ・地元の劇団が引っ張りだこで忙しかった。やはり、他劇団の公演を観たかったし、教えていただきたいことがいっぱいある。(他の劇団の上演を観て勉強したいとの思い)
- ・地区公演では今年の公演数及び地区のスタッフ数は約1/3程度であった。運営側にとって去年は中止だったので、今年やれただけでも良かった、他の行事の足掛かりになるという意見もあった。やはり、県外の劇団が来られず、交流できなかったのが残念。
- ・参加お断りの連絡と公演打ち合わせの連絡が同時期だった件は、地区で運営を担当するのが地区の分館役員だったりして、フェスタ本部との連絡、役員との連絡双方の情報伝達に時間がかかり、行き違いになってしまい申し訳なかった。運営側もどうやったら劇人の方にも見る側にもより良い公演になるか一生懸命なので、ご理解いただきたい。

### <飯田市民の受け止めは?>

- ・去年中止で街中に人が少ないとやはりつまらないと感じるようだ。県内開催でもやれたことはよかった。
- ・地区公演で小中学校の劇団が地域の人たちに観てもらえた。小学生の成長につながった。
- ・地区の役員向け学習会(上久堅)では、劇人の情報、知識を役員にダイレクトにつなげる交流も行っていて、双方にとってよい機会となっている。

### <今後の交流ミーティングについて>

- ・今まで知ることのなかった実行委員会の様子、劇団の現状がわかり、双方に有意義だった。
- ・フェスタ 2022 の開催概要が決まる頃やフェスタ 2022 終了後など、年に何回か開催したい。
- ・今後の開催について、実行委員会から日本ウニマのくすのきさんへ連絡をする。

<連絡：来年のフェスタは8/4・5・6・7あたりの4日前後を予定>